

「武士道」とは何か

『耕人』第8号で、新渡戸稲造が「武士道」を著わした経緯について書きました。ここでは、「武士道とは何か」という項で、新渡戸が何を伝えたかったかを書きたいと思います。

「武士道は、『日本の土壌に固有の華』、『力と美を兼ね備えた生きた対象』、『道徳的雰囲気』を放ち、今も私たちをひきつけてやまない存在である。武士道とは、武士が守るべきものであり、道徳的徳目の作法である。それは、成文法ではなく口伝(くでん)や格言によるものではあるが、それだけに、実際の行動にあたってはますます強力な拘束力をもち、ひとびとの心に刻み込まれた掟である。それは何十年、何百年にもわたって武士の生き方の有機的産物であった。」と述べています。新渡戸は、自分の育った環境や諸外国を回る中で、日本の伝統的な風習やしきたりのすばらしさを実感し、その土壌は「武士道」がつくりだしていると確信を持って述べています。

「武士道の源を探る」では、「仏教と神道(しんとう)が武士道に与えたもの」と題して次のように述べています。「仏教は武士道に、運命に対する安らかな信頼の感覚、不可避(ふかひ)なものへの静かな服従、危険や災難を目前にしたときの禁欲的な平静さ、生への侮蔑(ぶべつ:あなどつてないがしろにすること)、死への親近感などをもたらした。特に、禅は『沈思黙考(ちんしもくこう)により、言語表現の範囲をこえた思考の領域へ到達しようとする人間の探究心を意味する』その方法は黙想であり、そのめざすところは森羅万象の背後に横たわっている原理であり、でき得れば『絶対』そのものを悟り、『絶対』と、おのれ自身を調和させることである。」また、「神道の教義によって、主君に対する忠誠、先祖への崇敬(すうけい:あがめうやまう)、孝心(こうしん:親孝行を尽くそうとする心)などが教えられた。そのため、サムライの傲岸(ごうがん:おごりたかぶってへりくだらないこと)な性格に忍耐力が付け加えられたのである。また、神道の教義は、日本人の感情生活を支配している二つの特徴、すなわち愛国心と忠誠心をあわせもっている。」と、仏教と神道が武士道に与えた影響を述べています。

孔子・孟子・王陽明(おうやうめい)からの影響については次のように述べています。「厳密にいうと、道徳的な教義に関しては、孔子の教えが武士道のもっとも豊かな源泉となった。孔子が述べた君主、父子、夫婦、兄弟、朋友(ほうゆう)の関係は、日本人の本能と結びつき、冷静、温和にして世才があり、貴族的かつ保守的な語調は、武士統治者の不可欠のものとして適合した。孔子について、孟子の力のこもった人民主義的な理論は、思いやりのある性質をもった人びとにことのほか好まれた。これらの思想は、単なる知識としてではなく、王陽明が唱えた『知行合一(ちこうごういつ:知と行は一)』へと結びついていった。」と述べています。

難しい表現もありますが、一つ一つの意味を考えながら、丁寧に読んでいくと新渡戸稲造が「武士道」をどう捉えているかが分かってきます。休みの日にでも読んでみませんか？

「武士道の基本原理」になっている「君主、父子、夫婦、兄弟、朋友の関係」「冷静、温和、世才」や「怒(じ)の心」「惻隠(そくいん)の情」は孔子・孟子からの影響を受け、「知行合一」は王陽明から影響を受けたと新渡戸は言っています。このように「武士道」は多くの思想や教義から影響を受け、長い歴史の中で日本の『武士道』として昇華していったのだと思います。